



◎シヨツベンハウエルの女子に就いて

の論文と、ラスキンの「セサム、ア
ンド、リリス」中のリリス、オフ、
クワインス、ガーデンス」を讀み
て、兩者より提供せられし若干の問
題を思ふ。(承前) 千葉 安 良

第三、以上の問題に對する批評及び論斷、

(一) 女性論の範圍に入るべき諸問題

3. 女子の感情

シヨ氏は女子の感情の凡てを、その性的生活と
種の保存の職分とに立脚せるものと宣告し、且
つ女子の理性の缺乏がこれを影つて、女子の感
情は極めて調子の低い馬鹿氣たものであるとし
て居る。

(一) 女子は男子よりも多く現在に生きて、少
しでも楽しみの影のある時には、男子より

も強く楽しみ得る。これは女子に特有な快
活さの根源である、

(二) 女子の感情は狭い範圍に限られて居る、

(三) 同情心が強い。(しかしそれは理性の不足
の結果である)

(四) 女子と女子との間ではお互の感情がすぐ
きりつめられた餘裕のないものとなる。

(五) 女子は何事に對しても純粹な客觀的の興
味をもつことができない。(中略)そして彼
女が他のすべてのものに對する興味は常に
假装せられて居る。それは單に彼女の最終
の目的を贏ち得んがための迂曲した道にす
ぎない。ルーソーの「婦人は一般に如何な
る美術をも愛しない」云々の言を肯定して
居る。

かやうにしてシヨ氏は女子の感情中には純粹の
美感の含まれて居らぬこと、その深刻なるもの
の無いこと、凡てが或るフリボラスな影を伴へ
ることを言ふのである。さらばラ氏は如何に言
ふのか、

(一) 無限のやさしさ、柔らかさを心に持つ。

(二) 義務によつてするらしく見える行爲も多
くはその内心からの美しい要求によつて立
派な犠牲を行つて居るのである。

(三) 女子の感情は極めて高尚な極めて清い極
めて美しい極めて純粹さの強いものであ
る。

(四) 女子の偉大な職分は讚美にある。

かくてラ氏は女子の感情が、宇宙間のハーモニ
ーを代表するものと認めて居るらしいさて今此
れ等の二様の見を評するに當つて私は他の何れ
の問題よりもこの婦人の感情の問題は論じ去る
ことの難いものであると感ずることを述べ、且
つ總括的の論として見ても兩者ともに片手落ち
のものであると云ひたい。

何故ならば世に感情ほど多趣多様の内容を有す
るものは無く、あらゆる境遇によつてらゆるあ
複雑さを有するものは無い。感情は刻々に獨り
自由に生命の迷り、人性のあらゆる色彩を、
見せるものである。故に精神の直覺や知性の
自覺が大層よこふやうな感情も無論あるが、
又知性の自覺が肯定せぬ悲しい淺ましい感情
がいくらかもいくらかも我れ自らに訴へらるゝので
ある。もとより知識は精神の全活動の程度と方
向と内容を定めるものであるから、感情が教
育され方によつて改造されて行くのは云ふまで
もない。云ふまでもないことながら併しながら
その爲め感情はその特殊の味を失はない。女子
の感情はシヨ氏の言ふよりもラ氏の感じたより
も遙かに多趣多様である。「……夢とさめてはあ
どもなし。あだし野の露鳥部野の、煙は絶ゆる時
しなき。これが浮世のまことなる。眞をあらは
す一曲に。……」銀杏返しに葛引掛けて、鳴海絞
りを抜き袷に著こなした下町の若い娘は、岐阜
提灯の涼しい二階で、如何にもしんみりと唄う

て居るではないか、物寂びた四疊半の内、ほどよき加減の松風の聲を耳にしながら風爐の前に端坐して、袂紗さばきに全心を打ち込んでる四十すこした奥様の心は如何にも寧靜ではあるまいか。「ふたばより出でし若芽を育てんと、ふりゆく身をも思はざりけり」と夙夜にいとし子を守り育て、世の風浪と建闘する一寡婦は詠んだ。若し、三五、二八の小娘の仕舞の舞の袖の一振りにも、赤根さす入目を負うて張板の前に立つ老婆の姿にも「さあ召し上げれ」と手製のアイスクリームを嬉しさうに、今歸つて手水つかつた計りの良人の前に差し出す若き妻の笑顔にも子を守る母の守り歌のいくさりに、美しい藝術趣味を見出すならば、その主体となつて居る女子の感情の中にも亦、繪畫的の音樂的の詩歌的の、崇高な微激な温かいうるはしい感情やもしくは沈黙の裡に凡てを包み去つた恬淡な感情の存することを認めねばならぬ。而して又一方には、憎いとなることむやみに憎い。其嫁を呼ぶには聲の調子から違ふ。そして可愛い孫には

猫撫で聲、にこ／＼顔、それで自己の矛盾を氣の付かぬかたくなな老婆の感情もある。ヘツダほどではなくとも自己手腕を快き誇りとして、人を馬鹿にしてかゝり、口の先きに甘いことを云つて腹の中には利己一點張り、人をふまへて自分の成功を唯一のプライドとする婦人もある。神の榮光の裡には、笑んで、主への祈りに涙を濺いで、清い道を歩んで美しい暮しをする女子とても、ふと胸底にタツチせらるゝ感情は、決してラ氏の(一)の如く(三)の如くのみではない。もつと／＼深刻なものである。(實例は云はぬ。くどくなるを恐れて。)要するに感情の問題に對して私は左の如く結論したい。即ち、教育は感情を隠すことを教へる。同時に感情を美しく練ることを教へる。しかしそれ等の教へられた練られた感情も、その深處には、云ふばかりなく露のある、涙のある、微笑のある、温かいものを有し、又いふばかりなく恐ろしい悲しい暗いものを有して居る。人類進化の生活と生存競争の生活との絶間なく働いて居る人性の潑刺たる生命

は感情の上に送り出て居る。道徳的に訓練され知的に教育された感情でも、なほ感情は最も複雑な性質を包含して人性の生物學的方面と藝術的方面とを混一して吾人に真正面から迫つて居る。女子も全くこの通りである。それ故に決して感情は此所に論じられたもののみでなく、又論じ盡くせぬ所に豊かな意味と生命のあるものである。たゞ大体の傾向として通論することは勿論可能である故に、そつういふ意味で、示された項目に従つて評論しておくといふだけに止めるのである。我々は感情との闘ひに中々骨が折れる。ストラッグルのない、考へない美しい清い鋭い強い而も又淡い心情、聰明な心情、哲人的の心腸、それは實に我が懐ふ佳人の有すべきものであれど、以下多くは科學的研究から結論してありませぬ。私の學識では只今それができませぬ。他日さらに、研究を積むつもりでおさいます。

(1) ショ氏の(一)は事實であるらしい。併しこれは果して女性の根本的傾向であるかどうかは

斷言できぬやうに思ふ。精神生活の單純な人は男子でも斯うなのではあるまいか。教育されて眼界が擴まり識力が養はれて精神生活が複雑になつて來れば、女子だとして唯々現在にのみ生きるといふとは無い。それ故これは抑へ付られ限られて生活した過去の女子の境遇から生じた傾向であつて必然的のものではない。併し若し教育され練られて精神生活が複雑になつてもなほ此の傾向が有るとすれば、それは女子のために喜ぶべきことであらう。その性格の大を致す素地でもあり、且つ苦しい世を幸福に愉快に渡る要素でもある。まことに結構なことである。

(2) ショ氏の(二)はその(五)に云はれた主觀の強いといふことにも事實であるらしいが、これはショ氏の説の如く精神の活躍する範圍が狭いからで、これも女子の過去の生活が導き出したものである。そしてこれは前にも度々論じたやうに、妻として母としての天職を全うする上には都合のよいものである。但しショ氏が女子のこの主觀性の強いことを、その性的生活に根

本を置くとして解して居るのは賛成し悪い。私も女子の此の性格が妻として母としての本分を盡すに都合がよいと認めるのであるから、シヨ氏が種の保存といふ所から立論せるのを肯定せねばならぬのであるが、これに對してシヨ氏が直接に意味して居るのは、異性に對する憧憬からであるとするれば、私はそれをすぐ肯定し得ないのである。哲學的見解の眞所から示された眞理によつてもそのを見ることを嬉しく思つても、人生はたゞ或る一面のみを以て解してしまふべきではなく實際此の傾向に對して此のシヨ氏の見解は或る時期の間には或る人々には適合するものであるとしても、女子の一生を通じて、凡ての女子に之れを擬せられては事實に違ふ。女子の心情にも女子の感情にももつと高尚なものがある。もつと純なるものがある、もつと清い涙がある。女子が女子の天職に安んじ天職を自覺して盡して來、今も盡して居る間にはもつと豊かな意味がある。人中にある神性は女子の裡にも榮えて居る。女子の心中にもさばけた理

解はあつて、甘んじて今迄の主觀の強い境遇に生活して來たのである。その美的情操に關することは既述の通りである。

(3) 女子と女子との間ではそのお互の感情が切りつめられたものになるといふのはこれも事實として女子の間に存する。併しこれも部分論であつて一般女性の通性とはいへまい。けれども、後の道徳性の所で論ずる如く、女子は社交的性格の鍛鍊が足りなく、これまで何事も控へ目に控へ目にさせられた所から、この様なあらはれも生じたのである。蓋し他に對する批評感情ともいふべきものは、女子の心情の裡に鋭く動くものである。男子は正當な批評を意識して居ても、多くはそれを強く眼の前に浮ばせまいらしい。女子はすぐこれが強く意識に浮ぶ、それは何故であるか。多分は過去の割據的生活中に養はれたものであらう。その根底の原因は何にあるかは今斷言ができない。シヨ氏の説、異性に對する自己意識から女子同志が互に反撥しあふやうになるからといふのも、そのまゝ肯定する

に躊躇する。要するにこれは女子の感情に必然に存するものではなく、過去の境遇から一時著しく發達したものにすぎないのではあるまいか。

- (4) 女子の同情心については次の項に論じる。
- (5) ラ氏の(一)(二)は實に嬉しいものである。けれども、人には生れ落ちるところから、いろいろな周囲の事情がまつはつて、此のやさしい柔かい心情をむざ／＼損つて行くのである。私は損はれた慘酷な固い心が、又それに接する他の柔らかい優しい心をだん／＼と毀ひ固くさせて行くのを目撃すること、又自分がそれに遭遇すること、何とも云へぬ悲惨な感じを起すのである。けれどもなほ女子の感情の根本には此の無限のやさしさ、柔らかさがあるがために、妻として母として、又婦人として宇宙のハイモニアの一部を代表した美しいなつかしいものとなつて存するのである。「かあ様」いふ一言にどれほどの涙があらう。どれほどの微笑があらう。又ナポレオンがあゝの剛邁な心中になほ常に后

ジョセフインをやどしをつたとに於いても、女子のやさしさ柔らかさが、人生に有する意義は確かである。ラスキンの此の立言を無にさせぬやうに我々の心情があらねばならぬ、意識なしに自覺なしに)

- (6) ラ氏の(三)はよい女性のこれを有するもの女子の理想としてまさにかくあるべきものとおもふ。これをシヨ氏の(五)に比すると實に霄壤の差も管ならずと云ふべきである。我々はこれを嬉しいとおもつたら無にしてはならぬ。
- (7) ラ氏は「女子の偉大なる職分は讚美にある。」といふことを説かれた。私は之を實に會心の言と手を拍つて喜んだ。私は嘗て「讚美の生活」といふことについて考へた。そして凡ての人間の生活の形式の一つとして、「讚美の生活」を價値あるものと信じて居た。それを今ラ氏の言に仍つて、特に女子に對してその偉大なる職分が讚美に在るといふことを考へ、更らに新しい意味を見出した。それ故少し長くなるが茲にこれに就いて稍々十分に述べたい。

花守りは營々として園に培つた。美しき薔薇の花が芳香馥郁として開いた。花守りは罪なき笑を傾けて今その一輪を愛で、居る。私は此の様を心に描いて、それから二つの教訓を見出すのである。その一つは生活の意義に對する二方面で、他の一つはそれに就いての私共の態度である。此の美しきものゝ見られた時、花守りは快き嬉しさを感ずる。しかも彼れは決して「此の花を私が作つた」と云ふとはできない。彼れは「オ、よく咲いて呉れた此花が」といつて薔薇に感謝せねばならぬ。そして彼の嬉しさと云ふのは、彼れ自身がその薔薇を作り出したところにあるのではなくて、花の開くのを幾らか助けることができたといふ自覺であつて欲しい。窈姚として可憐なる花は薔薇自らの生命が發して開いたのである。薔薇はその花を咲かせて、その生の意義を全うした。花守りは花を咲かせることに骨折つてその生の意義を全うした。そして彼れは余念なくその薔薇を讚美して居る。此の薔薇の生活と花守りの生活とは序論に述べた一成るべ

きための生活」と「爲すべきための生活」といふことになる。そしてそれに就いて此の花守りの態度から別に讚美の生活といふことを導き知るやうになる。ラニソンの詩は我等をあざむかぬ。ウオールフラワーの花一つでも、我等はこれを知りつくし得ぬ。奇しき生そのものは、たゞ自然が生を與へたものには、生命があるといふ以上は知り得ないのではあるまいか。自然の力、自然の法則は恒久に行はれて我等がこれを知るに先だち、その知の前に、その知の上に、吾人の知を超越して働いて居る、人の力も亦大である。藝術的才能に科學的研究に、私共が涙を流して喜ぶ大なる力を有して居る。しかし其等の偉大なる力を人自らが發したと云ふのも、發揮し得べく生を與へられて居るからのこと。そこで我々は人を他の生物をも無生物をも渾一して宇宙間に大なる生命があり、その生のまゝに宇宙が働いて居るとが判る。今の私の知はヘッケル氏の一元論的宇宙觀を哲學的基礎において居る。それ故我等は我等の凡ての上に與へられて

居るこの生の力により我等の生に意味あらしめるやうに生々發展せねばならぬ。そしてそれに就いて個別的の考へをとらずに、此の大乾坤の大生命の一部として自己を考へると云ふ事が肝要である。そこに悠々の月日が生じ讚美の生活が起るのである。即ち先づ直覺的に恒常に大なる、美なる、生きたる、調和ある自然を知り、その法則とその表象とを讚美し、次ぎに歴史を學び博物を學び、その他の自然科學を學んで、その自然の法則の正確なること、諸生物及人類の生命の力に奇妙なるものゝあることを知り、その生存が極めて確かな事實なるを考へて心強く思ひ、自己の内に亦その生與へられ居る事を驚嘆し歡喜するのである。更らに又、古來の人及び現在の私共の周圍にある人を考へて見る。彼の薔薇の如く美しき花を開くべく生れて美しき花を咲かせた偉人哲人英傑藝術家等がある。又その花を培ふため生れてよく其職を盡した人もあつた。現在なほ此何れかに務めて居る人がある。かくして我等は自然と生との意味を知り此

れを讚美し、且つ自身も大宇宙の生命の一部なることを知り、その大なる生命の内に立脚して生を遂げるとともに、我等のすぐ眼の前にある親とか先生とか先輩とか友人とかかの中に立派な人のあるのを喜び、これを仰ぎ、これを讚美し、その人々によつて示される眞にもとづける生活の安らげさを味はひ得るのである。さらば此の讚美といふとは如何なる意味があるものかと云ふと先づ直接にその大なるもの、美なるものによつて生の表象の美を知り、生及び宇宙の運動の深き意味に接觸するといふことである。嘆美の刹那には自己がその嘆美の對象に同化し、それと同生命の裡に生きつゝあるのである。更に言をすゝめて美學的に解したならば、自己の内に亦包まれて居た大なるものが昂奮して對象の内に乗り移つて、つまり自己の大と崇美とを認めるといふことになるのであるが、それはとにかく嘆美の瞬間には自己が無意識的にその對象と同一の生命に生きて居るのである。ここに始めて小なる者が大なる生命に冥合するこ

とができるのである。なほ次に今一つその嘆美の純粹なる時には知らず識らずその対象の美や大が、自己に傳へらるゝのである。嘆美の対象の示す眞を知り、美を知り、その眞にもとづける生の安らげさと誤りなさと美しさを身に經驗し、それを内に有することが出来るやうになるのである。エミール・スーベスターの「アテイククフイロソフハー」に権力の價値といふ章があつてそこに「人々は恰も高い台の上に燈明台をきづくやうに、自分達の肩でその主人を高くかつぎ擧げて、そしてその主人を取り捲く。それはその光の幾分か、自分達に反映することを望むからである。此の服従のヴァニテイは、統治のヴァニテイと同じやうに、人間に自然なものである。自分で他を治めることのできないを知つた人は、少くとも力強い人の下に居らうとする」と云つて居る。實に穿つた見方で愉快な皮肉である。しかし我等が他を讚美するといふ事には今少し神聖な純粹な意味があると信じる。これは自然が、より小なる人をしてより大なる生命

に生きさせんとする大なる計畫であると思ふ。而して此の讚美には少くとも三様の種類がある。一つはたゞ余念なく対象を美とし大として仰ぎ愛づるもの、讚美の最も純粹なるもの殆んど自覺のなきもの、その二はその対象を讚美して自己もこれに倣はむとするもの、自己意識自覺の加はりしもの、第一よりも一層所謂眞面目さの加はつたもの、その三は自己の感情の満足又は自己の利益を希ふするもの、スーベスターの言の如き意味あるもの。かく三様に分けられるが、その内第一の讚美の状態を常に我等の内を保ちたい。純粹なる讚美は決して我等から一物をも奪ひ去ることなしに、常に我等に新鮮なる歡喜と譬ふべからざる尊さと生甲斐を味はせて呉れるのである。薔薇の花の愛らしくあてな一輪、百合の花の清くやさしい一莖が、天地の心を表はす自然の美術であるとしたならば、人類の精神そのもの人格そのものを亦自然の美術と見ることが出来る。我等は所謂自然の力を讚美するとともに又常に此類の精神人格の裡に美

と大とを認めてこれを最も純粹に讚美して行きたい。遠く離れたことになしに、此の考を以て周囲のものに接したならば、如何なる瞬間にも到る處に讚美の対象を見出し得て、我等の日暮しは豊かな余裕のあるものとならう。

さてラ氏は果して如何なる意味を以つて彼の言をなしたのであうか。夫に仕へ子を育て、蔭に働く婦人に對して、その夫を通し子を通して自己意識を働かせよ、その夫を讚美し、子を讚美して自分も満足し、同時に其の夫や子供即ち讚美の対象に刺戟昂奮を興へよといふのか。恐らくは、ラ氏は女子の直覺的意識力が、世の男子の立派なる行、果敢なる行、偉大なる行を鋭く感じてそれを讚嘆賞美するところに、女子が男子の慰藉となり刺戟となり、善美の維持者となることを意味したのであるまいか。私はこゝに想到して新らしき考を心に得た。しかし自分もかやうに分解して考へついでて來ると、何だか清い感情がいかにも窮屈な意識を擁して來るやうに想はれる。ラ氏の所論から想到した私の此の結論は事に仍つたら調子の卑いものと

男子から反抗されるかもしれない。併し純粹なる感情を以て融合するならば、事實はかうなるのではあるまいか。人情の機微は言説を超越した所に力強い威力を保つのである。絶對から感得する賞美即ち自己の内心の讚美に依藉してするのでなくては男らしくないであらうけれども、苦しい時、淋しい時、困憊の時疲れたるものを蘇生せしむるは衷心の美しさである。「純粹なる感情ほど美しいものはない。美しいものは強いものはない。」とは漱石先生の言である。私は自分の如上の結論に對して多分誤らぬであらうと信じて居る。いかに強い人でも、その衷心の涙はまことに美しい可憐さを擁するものであると知る故に。(以上(7)に述べたところについてば汝の所論は徒らに人生を修飾するものであるとの言を得るかも知れません。しかしそれでもよいと私は信じます)

(8) 最後に女子は感情に支配され易いこと事實があることを女子の感情の項に入れて考へねばならぬことを一言しておく。これについてはすでに前論にのべた故。論及はせぬ。(未完)